

福島市中央地区の小学校の再編について

1 中央地区再編について

(1) 再編の理由

福島市立小学校・中学校の適正規模・適性配置に係る第一次実施計画における「3施設更新に併せた総合的な視点からの学校規模適正化の推進」では、「施設の老朽化ならびに小規模化が進行する小・中学校の施設更新にあたっては、防災や安全、または公共施設マネジメントも含めた総合的な視点から近隣校との統廃合を推進し、よりよい教育環境を整備する」としており、中央地区では福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校が対象となっている。

(2) 福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の児童数の推移

・福島第一小学校

令和7年度推定児童数は86人だが、令和12年度には69人に減少（-17人）の見込

・福島第四小学校

令和7年度推定児童数は63人だが、令和12年度には106人に増加（+43人）の見込

・清明小学校

令和7年度推定児童数は145人だが、令和12年度には157人に増加（+12人）の見込

※毎年、この中から約20%～28%の児童が、国立、私立、学区外等の学校へ進学する。

(3) 複式学級の学級数

・福島第四小学校は、令和6年度は複式学級が1学級（3・4年）、令和7年度は、複式学級が1学級（3・4年）になる見通し。

※当面の下限としている「各学年1学級を維持できる規模」にも該当しない。

※本市の目指す適正規模の学級数：小学校においては、全学年においてクラス替えが可能となる各学年2学級以上、全校で12学級～18学級

(4) 防災や安全面での課題

・清明小学校は、ハザードマップでの浸水エリアに位置している。

※子どもたちの安全・安心な環境を確保できない。

2 中央地区教育構想検討会での主な検討内容

(1) 福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の再編の在り方

(2) 隣接する小学校との学区の再編（基本学区と自由学区）

(3) 不登校支援としての学びの多様化学校（不登校特例校）の設置

(4) 本市小学校教育の先導的なモデルとなる学校の設置

3 これまでの中央地区教育構想検討会での取組内容

時期	実 施 内 容
R6年 2月	○第1回中央地区教育構想検討会開催(9日) ※市民会館501号室 【主な協議内容】 ・中央地区の現状と課題について ・今後の検討会スケジュールについて

時期	実 施 内 容
3月	○第2回中央地区教育構想検討会開催(12日) ※市民会館404号室 【福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の学校視察を実施】 ・各校長より学校の現状と課題についての説明
5月	○第3回中央地区教育構想検討会(23日) ※市民会館501号室 【主な協議内容】 ・福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の視察を終えての感想等 ・3校の視察から見えてきた課題と本市課題を踏まえたその対応策について ①学校の立地や校舎、登下校の安全について ②「どのような子どもを育てたいか」「どのような教育を行いたいのか」
7月	○第4回中央地区教育構想検討会(26日) ※庁議室 【主な内容】 ・鎌倉市教育委員会教育長、白石市立白石南小中学校長による実践事例等の紹介 ・質疑・応答等
10月	○第5回中央地区教育構想検討会(9日) ※庁議室 【主な協議内容】 ・基本方針策定に向けて論点整理① 協議「福島市中央地区の教育構想に盛り込みたいこと」 ○「先導的な学び」について
11月	○第6回中央地区教育構想検討会(18日) ※市民会館502号室 【主な協議内容】 ・基本方針策定に向けて論点整理② 協議「福島市中央地区の教育構想に盛り込みたいこと」 ○「一人一人に寄り添った多様な支援の在り方」について ○本市不登校児童生徒の現状について
R7年 2月	○第7回中央地区教育構想検討会(5日) ※庁議室 ・基本方針策定に向けて論点整理③ 協議「福島市中央地区の教育構想に盛り込みたいこと」 ○「中央地区の小学校の再編の在り方」について ○「学区・通学区域の見直し」について

4 今後の取組の予定

時期	今 後 の 予 定
5月	○第8回中央地区教育構想検討会 ・基本方針案の検討
7月	○第9回中央地区教育構想検討会(最終回) ・基本方針の策定 ・福島市中央地区教育構想検討会委員長から基本方針を教育長に提出 ・教育委員会から自治振、地区等へ基本方針についての内容説明(5回) 場所:各小学校、市の施設等(7月～9月)
12月	○再編計画の完成

5 令和8年度以降

R8～9年度

○福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の保護者や中央地区住民に対しての再編計画の説明会実施

○保護者や市民への開校に向けた情報提供

R10年度

○開校準備委員会の開催(年間5回程度)

R11年度

○開校準備委員会の開催(年間5回程度)

R13年4月

○再編後の学校での授業開始

中央地区教育構想検討会基本方針構想図(案)

第5回

先導的な学び

【「どうして？」から始まる学び】

- ・挑戦や失敗を大切にし、自ら課題の解決に挑戦する学習の実践
- ・デジタル×アナログのハイブリッドによる学び
- ・子どもを主語とした授業の質的改善

【街中みんなが先生の学校】

- ・研究機関や企業等と連携しながら学べる学校
- ・子どもと地域住民等がシェアする学び舎
- ・子どもと教師を繋ぐ地域サポーターがいる学校
- ・空き教室を市民に開放しいつでも学べる環境
- ・地域の学校教育への参画

○ 先進的な取組

【鎌倉市教育委員会教育長】:学習者中心の学びへの転換

【白石きぼう学園校長】:自分のペースで学べる学校

再編された中央地区の小学校
「中央地区だからこそできる魅力ある
教育の実現」中央地区の
教育の創造

第7回

中央地区の小学校の再編

【ニーズに合った学校づくり】

- ・先導的な学びを実現する学校を1校と一人一人に寄り添った多様な学びを実現する学校1校の計2校を設置

学区・通学区域の見直し

【柔軟な学区の設定】

- ・3校の学区の端に自由学区を設定

第6回

一人一人に寄り添った多様な支援の在り方

【一人一人にマッチするカリキュラム編成】

- ・自分に合った個別最適な学びができる学校
- ・自分らしく成長することができる学校

【街中がフィールドの学校】

- ・山や川など福島市の環境を生かし、様々な人と関わりながら学ぶことができる学校

福島一小学校・福島四小学校・清明小学校の文化の継承と発展
～3校の伝統・DNAを引き継ぎ新たな文化を創造する小学校～

学区と地域コミュニティの再編

【中央地区の小学校の現状】

- ◆少子化による中央地区の児童数が減少している。
- ◆3校の校舎が築年数60年を経過し老朽化が進んでいる。

【福島市の喫緊の課題】

- ◆小学生・中学生の学力の向上
- ◆不登校児童生徒の増加